●新刊図書紹介 （★･･･ピックアップ図書　3ページ目に詳細を記載しています）

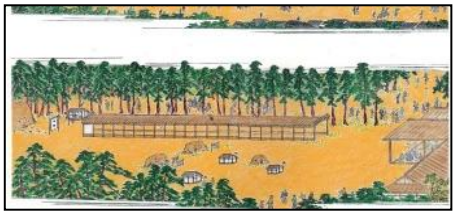
	図　書　名	著　者	出　版
	議　会・地方自治		
★	図解 よくわかる地方議会のしくみ	武田　正孝	学陽書房
	地方議会の政務活動費	勢籏　了三	学陽書房
	地方自治小六法　平成28年版	松本　英昭	学陽書房
★	釧路市の生活保護行政と福祉職・櫛部武俊	櫛部武俊	公人社
	ま　ち　づ　く　り		
	未来を変えた島の学校　―隠岐島前発　ふるさと再興への挑戦	山内道雄、岩本悠、田中輝美	岩波書店
	僕たちは島で、未来を見ることにした	巡の環	木楽舎
★	地方創生の正体　なぜ地域政策は失敗するのか	山下　祐介、金井利之	筑摩書房
	白　書		
	土地白書　平成27年版	国土交通省（編）	勝美印刷
	そ　の　他		
	まるわかり電力システム改革キーワード360	公益事業学会学術研究会（監修）	日本電気協会新聞部
	心が通じるひと言添える作法	臼井　由妃	あさ出版
	きっぷのルールハンドブック	土屋　武之	実業之日本社

京都の冬の風物詩「通し矢」と和歌山

新春のこの頃に行われる、「通し矢」（正式には「大的大会」）という行事をご存知でしょうか。「通し矢」は京都の三十三間堂で行われ、弓道の有段者（新成人と称号者）2千人が全国から集まり、60メートル先の的を狙って腕を競い合う大会です。特に、成人を迎えた若い女性が振袖・袴姿で弓を射る姿はとても華やかで、京都の冬の風物詩の一つとしても有名です。テレビなどでご覧になられたことのある方も多いのではないでしょうか。

弓を引く振袖姿の新成人たち→

この大会は、江戸時代の「通し矢」にちなむ大会で、当時はお堂の軒下を南から北に弓を放ち、120メートル先の的を射通す競技でした。いくつかの種目に分かれていたのですが、特に人気があったのが「大矢数（おおやかず）」で、24時間弓を引き続け、的に当たった矢の数を競うという過酷なものでした。実は、この最高記録を持っているのが紀州藩の武士なのです！



三十三間堂（上）と和歌山城下の弓の練習場（下）

その当時、「大矢数」はとても流行しており、各藩を挙げて盛り上がりを見せていました。そのような中、記録に挑戦したのが名草郡和佐村出身の和佐大八郎です。彼が放った矢は、総数13，053本。そのうち通した矢はなんと8，133本！！長い間破られることのなかった記録を大きく塗り替え、日本一の偉業を達成しました。これは、計算すると1時間に544本、1分間に9本矢を放っていることになります。24時間もずっとこの速さで的を狙い続けた精神力と技術、体力には、驚かざるを得ません。「大矢数」は18世紀中期以降ほとんど行われなくなったとのことですが、この記録は300年以上経った現在まで一度も破られていません。

また、和歌山城下（現在の県立博物館周辺）には弓の練習場があり、大八郎が日本一の記録を打ち立てたことにちなみ、三十三間堂を模した堂形の射場がわざわざ作られたそうです。地元和歌山で彼の活躍がどんなに喜ばれたことか想像でき、なんだかほほえましいですね。

「大的大会」は、毎年1月中旬の日曜日に開催されています（今年は1月17日）。現代の華やかな射手達に、紀州藩士の凛々しい姿を重ねながらご覧になってみてはいかがでしょうか。

参考文献：「城下町の風景 カラーでよむ『紀伊国名所図会』」 額田雅裕